



シネラ・ニュース
July.2002 No.72

特 集

侯 孝 賢

ホウ・シャオシェン
監督特集

特 集

日本の実験映画

～シネラ収蔵作品から～

特別企画

ママ 炭鉱を観る

～石炭の歴史を映画で振り返る～

7

イラスト:花野孝史



炭鉱(ヤマ)を観る

特別企画

20世紀は石炭の世紀と言われる程、各種産業の発展に石炭は欠かせない存在であった。最盛期となる昭和20年頃には全国で八百力以上の炭鉱が操業していたが、昭和40年を境にエネルギーの主役が石油に交代したため、次第に減少して昭和50年には20力所程度になってしまふ。そして今年1月には、日本最後の炭鉱となった北海道の太平洋炭坑が閉山した。今回の特集は、日本経済の発展に大きく貢献した「石炭産業」に焦点をあて、炭鉱で働く人々や炭産地で生活する人々を描いた映画を通して、私たちの生活とも関わり合いが深かった石炭について振り返る。

会期

3日(水)～14日(日) ※休館日は除く

観覧料

600円(大人) 500円(大学生・高校生)
400円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方、及び福岡市在住の障害者の方は300円。(手帳の提示が必要です。)

主催：福岡市総合図書館

協力：RKB毎日放送株式会社

6日(土)11:00
10日(水)14:00

三たびの海峡

監督：神山征二郎

出演：三國連太郎・南野陽子

1995年/35ミリ/カラー/123分/「三たびの海峡」製作委員会

7日(日)11:00
11日(木)14:00

プラス!

監督：マーク・ハーマン

出演：ユアン・マクレガー

1996年/35ミリ/カラー/107分/イギリス/日本語字幕付き



原作は吉川英治新人文文学賞を受賞した帚木蓬生の同名小説。太平洋戦争末、韓国から北九州の小さな炭鉱に強制連行され、日本人の労務監督のもとで過酷な労働を強いられた韓国人・河時根(ハー・シグン)の半生を描く。



イギリスの名門アマチュア・プラスバンド「グライムソープ・コリアリー・バンド」。炭坑夫達を中心に結成され、歴史と実力を持つこのバンドだったが、町は炭鉱閉鎖に反対する争議で揺れていた。実話を基にした感動的な作品。

7日(日)15:10
9日(火)14:00
10日(水)19:00
12日(金)14:00
13日(土)14:00

闇を掘る

監督：藤本幸久

2001年/16ミリ/カラー/105分/ドキュメンタリー

6日(土)14:00
9日(火)19:00

にあんちゃん

監督：今村昌平

主演：長門裕之

1959年/35ミリ/モノクロ/101分/日活

4日(木)19:00
5日(金)14:00
14日(日)11:00

筑豊のこどもたち

監督：内川清一郎

出演：加東大介

1960年/35ミリ/モノクロ/106分/東宝=日映新社

5日(金)19:00
13日(土)17:00

花と竜

監督：舛田利雄

出演：石原裕次郎・浅丘ルリ子

1962年/35ミリ/カラー/109分/日活

3日(水)14:00
11日(木)19:00

ケス

監督：ケン・ローチ

主演：デビッド・ブラッドレー

1969年/35ミリ/カラー/112分/イギリス/日本語字幕付き

～石炭の歴史を映画で振り返る～



北海道・夕張の空知炭鉱が閉山した1995年から炭鉱の閉山とそこで働いていた人々のその後を、三つの家族を中心に5年間に渡って撮り続けたドキュメンタリー。「炭鉱」という一つの歴史は終わっても、彼らの心の中に「炭鉱」は生きている。

3日(水)19:00
13日(土)11:00

海底炭鉱に生きる

監督：野島健輔

1983年/16ミリ/カラー/54分/ドキュメンタリー

昨年閉山した九州最後の鉱山であった長崎県の西海国立公園の海に浮かぶ池島(松島炭鉱池島鉱業所)炭鉱。1983年、松島炭鉱の企画、RKB映画社の製作によって作られた産業映画であり、当時の採炭の様子などが紹介された貴重な作品である。

まっくら 筑豊問題

ディレクター：木村栄文

出演：常田富士男

1973年/ビデオ/カラー/47分/ドキュメンタリー

4日(木)14:00
14日(日)15:00

TVドキュメンタリーの作家として全国的に知られる木村栄文演出のドキュメンタリー。筑豊の三池炭鉱閉山後もそこに残る人々の想いを、フィクションと古い記録フィルムなどを織り交ぜて描いた異色作。RKB毎日放送制作。



五木寛之の同名大河小説の第一部にあたる「筑豊編」の映画化。筑豊の炭鉱町に生まれた伊吹信介が、父親・重蔵、継母のタエ、重蔵の死後、タエと信介の面倒を見る竜五郎など様々な大人達に支えられながら成長していく姿を描く。

監督：蔵原惟緒・深作欣二

出演：佐藤浩市・松坂慶子

1981年/35ミリ/カラー/140分/東映

6日(土)17:00
12日(金)19:00



不況に追い込まれた北九州炭鉱地帯。2つの組合がいがみ合うある炭鉱で、双方の疑惑を助長する事件が次々と起こっていく。作家・安部公房がテレビ・ドラマ用に書き下ろした作品を自ら脚色した作品で、監督・

監督：勅使河原宏

出演：井川比佐志・宮原カズオ

1962年/35ミリ/モノクロ/97分/勅使河原プロ=ATG

対談

7日(日)14:00～

藤本幸久×深町純亮



藤本幸久(映画監督)

1954年三重県生まれ。早稲田大学卒業後、ドキュメンタリー映画の製作に参加。95年上映活動で訪れたことをきっかけに北海道新得町に移住。監督作品に「教えられなかった戦争」「森と水の夢」「闇を掘る」等がある。森の映画社主宰。毎年地元の人々と新得空想の森映画祭を開催している。

深町純亮(前飯塚市歴史資料館館長)

1925年福岡県甘木市生まれ。九州大学卒業後、麻生鉱業入社。西日本ハイウェーサービス、麻生セメントを経て、92年飯塚市歴史資料館館長に就任。現在麻生セメント(株)社史資料室顧問を務める。著書に「筑豊石炭史話」「炭坑物語」等。



※開場は開演の30分前。入場は有料制で、当日の「闇を掘る」の観覧料に含まれます。

特集

侯孝賢

台湾を代表する映画監督
 ホウ・シャオシェン(侯孝賢)監督の
 作品特集

会期：17日(水)～21日(日)
 観覧料：500円(大人)
 400円(大学生・高校生)
 300円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制
 ※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
 ※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の障害者の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

今回の特集で上映するホウ・シャオシェン監督の4作品は、すべて総合図書館で収蔵したものです。今回シネラで初上映となるのは、ホウ・シャオシェン監督の初期の傑作である「冬の夏休み」と、国際的な共同製作により完成した「フラワーズ・オブ・シャンハイ」の2本です。特に「フラワーズ・オブ・シャンハイ」は99年にホウ・シャオシェン監督がアジア文化賞を受賞して来福した際、図書館にプリントを譲ることを約束してくれたことで、収蔵が可能となりました。煙るような官能の世界をホウ・シャオシェン独特の感性で描いた「フラワーズ・オブ・シャンハイ」、そしてホウ・シャオシェン監督を世界に知らしめた少年期4部作の中の3本。この4作品ではホウ・シャオシェン監督の足跡をたどるといには不十分ですが、過去から現在まで変わらないホウ・シャオシェン監督の世界を感じることが出来ます。

冬の夏休み

17日(水) 14:00
 19日(金) 19:00
 20日(土) 11:00

A Summer at Grandpa's



1984年/35ミリ/カラー/98分/台湾

監督：ホウ・シャオシェン(侯孝賢)
 出演：ワン・チークアン(王啓光)
 リー・シュジェン(李淑楨)

日本語字幕付き

夏休み。台北に住むトントン(冬冬)と妹は、母親が病気で入院するため母親の実家にあずけられることになる。トントンは近所の子供たちとすぐに仲良くなるのだが、妹はなかなか男の子たちの遊びに入れない。淡々とした物語ながら、少年の夏休みを生き生きと描いたホウ・シャオシェン監督の傑作。

童年往事

18日(木) 14:00
 20日(土) 15:00

The Time to Live and the Time to Die



1985年/35ミリ/カラー/137分/台湾

監督：ホウ・シャオシェン(侯孝賢)
 出演：ユウ・アンシュン(游安順)
 シン・シュフエン(辛樹芬)

日本語字幕付き

アハ少年の一家は、国共内戦により台湾に移住してきた。父親はいつか大陸に帰ることを夢見ながら死亡することになり、アハ少年は成長し、近所ではガキ大将的存在になっていく。ホウ・シャオシェン監督の自伝的色彩の濃い作品で、外省人の家族の20年に渡る物語が描かれる。

恋恋風塵

17日(水) 19:00
 21日(日) 11:00

Dust in the Wind



1987年/35ミリ/カラー/110分/台湾

監督：ホウ・シャオシェン(侯孝賢)
 出演：ワン・ジンウェン(王晶文)
 シン・シュフエン(辛樹芬)

日本語字幕付き

60年代、鉅山の町で兄妹のように育った中学3年生のワンと2年生のホン。ワンは父親が事故に遭い、台北の印刷所で働きながら夜学に通う。翌年ホンも台北に出て、洋装店に勤め始める。「風塵の少年」から始まる少年期4部作の最後の作品。ワンとホンの淡い青春の恋の物語がせつなく語られる。

フラワーズ・オブ・シャンハイ

18日(木) 19:00
 19日(金) 14:00
 21日(日) 15:00

Flowers of Shanghai



1998年/35ミリ/カラー/121分/台湾=日本

監督：ホウ・シャオシェン(侯孝賢)
 出演：トニー・レオン
 羽田美智子

日本語字幕付き

中国文学の古典「海上花」を映画化した作品。19世紀末の上海の遊郭を舞台に、孤獨なエリート官僚ワンとシャオホンの愛の物語が描かれる。全編を室内に限定し徹底したワン・シーン・ワン・カットの演出にこだわった、ホウ・シャオシェン監督の美学が冴えわたる。

福岡市総合図書館では日本の実験映画を収集してきました。今回はこれらの収蔵作品の中から、まだシネラで上映していない作品を中心に昭和40年代以降、年代ごとに紹介いたします。

26日(金) 14:00
 プログラムⅠ 27日(土) 15:00
昭和40年代 7作品/61分

昭和40年代前半は東京の草月会館での海外の新旧実験映画の紹介や、コンペティション形式の国内実験映画祭開催などに刺激を受け、多くの実験映画作家が登場した時期である。それは同時に、いくつかの出自を持つ日本の実験映画が、より多様な一つの大きな流れを作った時期でもあった。

風雅の技法
 1967年/16ミリ/モノクロ/3分/山田孝/月尾嘉男
 シンジュクステーション
 1970年/16ミリ/モノクロ/16分/城之内元晴
 GRAPHILM
 1970年/16ミリ/モノクロ・サイレント/18分/野村仁
 KIRI
 1971年/16ミリ/モノクロ/7分/萩原朔美
 10SEC
 1973年/16ミリ/モノクロ/8分/榎本た壱
 MIMESIS
 1973年/16ミリ/カラー/6分/吉崎克美
 杏梨と小夜子
 1974年/16ミリ/モノクロ/3分/沢渡朔

26日(金) 19:00
 プログラムⅡ 28日(日) 11:00
昭和50年代 9作品/74分

50年代は、昭和52年(1977)にアンダーグラウンド・センターが「イメージ・フォーラム」と改称したことに象徴されるように、メジャーに対するマイナー、アッパーに対するアンダーという観念は薄れ、組織的な「運動」から個々の作家の「活動」へ変わっていった。

LE CINEMA(映画)
 1975年/16ミリ/モノクロ/5分/奥山順市
 隔てられた部屋
 1975年/16ミリ/モノクロ/11分/中川邦彦
 1秒間24コマ
 1975年/16ミリ/モノクロ/11分/飯村隆彦
 ヘリオグラフィ
 1979年/16ミリ/カラー/5分/山崎博
 Nothing
 1980年/16ミリ/カラー/8分/大谷淳
 石化(1)
 1982年/16ミリ/モノクロ/5分/IKIF
 100%の女の子
 1983年/16ミリ/カラー/11分/山川直人
 形態集
 1983年/16ミリ/カラー/4分/上林栄樹
 夢はとちつてつばを吐く
 1983年/16ミリ/カラー/14分/藤井晴美

27日(土) 11:00
 プログラムⅢ 28日(日) 15:00
昭和60年代以降 9作品/83分

美術系大学の映像コースや地方の実験映画団体などからあらわれた新しい作家が、本格的な活動を始めることにより、より多様な作品が発表されていく。その一方でビデオやCGの普及により、映像の可能性は広がりを見せ、映像は例えば絵画や彫刻などと同じように、一つの表現手段として認知されるようになった。

襲
 1985年/16ミリ/カラー/6分/増原一衛
 戯れの太陽系
 1985年/16ミリ/カラー/7分/昼間行雄
 ひやかずかん
 1989年/16ミリ/カラー/12分/やまむら浩二
 VMの夢想
 1989年/16ミリ/カラー/8分/山崎幹夫
 TOKIO/HOUSE
 1990年/16ミリ/カラー/7分/石田純章
 Sight
 1991年/16ミリ/カラー/12分/青山克己
 光景獲り
 1992年/16ミリ/カラー/5分/大木裕之
 降水確率
 1994年/16ミリ/カラー/11分/宮崎淳
 かげのあかり
 1994年/16ミリ/カラー/15分/斎藤ユキエ

特集

日本の実験映画

シネラ収蔵作品から

会期：26日(金)～28日(日)
 観覧料：500円(大人)
 400円(大学生・高校生)
 300円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制
 ※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
 ※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の障害者の方は半額。(手帳の提示が必要です。)



ひやかずかん

100%の女の子

FIAF総会に参加して

多くのアジアの国と地域が映画のフィルム(プリント)を保存する環境に恵まれていないことから、アジア映画の貴重な作品が今尚失われています。そこで福岡市は図書館を通して、アジア映画を貴重な文化財として次世代のために収集・保存しています。このような活動を行うフィルムの保存施設を英語では「Film Archive」(フィルム・アーカイブ、即ちフィルム保存館)と言います。ベルギーのブリッセルに「フィアフ」という世界一大きいフィルム・アーカイブの組織があります。この組織はFederation Internationale des Archives du Film(国際フィルム・アーカイブ連盟)を略してFIAF(フィアフ)として知られています。この4月、フィアフは初めてアジアで総会を開き、図書館もソウル市で開催された同総会に出席しました。

ワールドサッカーを前にソウル市は既に「サッカー・フィーバー」に包まれていました。タクシーには「無料通訳サービス」のチラシが張られ、市内にはワールド・サッカーを意識する看板やポスター、またテレビではワールド・サッカー関連のCMが沢山放送されていました。

フィアフの会議は今まで体験した「国際交流」をさらにレベルアップしたものでした。アジアを含む世界からの



「301:302」のパウ・チョルス監督
その隣に通訳のギルさん

フィルム・アーカイブの共通点とはことばではなく、フィルムを保存する真剣な姿勢であることを感じました。ある日パチカンの代表とプエルトリコの代表が会話をしていました。パチカンの代表はイタリア語で、対するプエルトリコの代表はスペイン語で会話をしていました。また、カナダとフランスの代表がフランス語で、ウズベキスタンとモンゴルの代表がロシア語で話すなど、共通の目標さえあれば、ことばは問題にはならないことをしみじみ感じ、感動させられました。さらにこの総会では色々な講演発表がなされ、フィルムだけではなく現在韓国が一番力を入れている映像のデジタル化(映像をフィルムだけではなくデジタル(デジタルビデオやDVD等)に移し代えて保存する活動)についても協議されました。

福岡ではアジアフォーカス福岡映画祭を通して国際交流が促進されますが、フィルムの保存のように映画を次世代に残すという違った概念で交流を体験することができ、非常に勉強になりました。

映像調査専門員 デビッド・キャリシャ

インフォメーション



シネラニュース送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成14年8月号～平成14年3月号までの郵便切手(90円×8ヵ月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。

宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課



ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8・DV)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄)
※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

次号の予告

8月1日(木)～11日(日)

特集「アジアの子供たち」

アジア各国の子供を主人公にした映画の特集。

「青いマンゴー」「めざめ」「ザ・ブーツ」「春へ」「七つの海を越えて」
「ステファノとグレチェン」「おせっかいはNO、愛はOK」
「少年と狼」「ドゥルの少年期」

「おせっかいはNO、愛はOK」



8月14日(水)～9月1日(日)

特集「アニメーション特集」

親子で楽しめるアニメーション映画特集。漫画家・横山隆一氏の追悼ミニ特集も。

「おとぎの世界旅行」「ひょうたんすずめ」「ふくすけ」「桃太郎海の神兵」
「森の伝説」「展覧会の絵」「ジャックと豆の木」「わんわん忠臣蔵」
「どうぶつ宝島」「龍の子太郎」「わんぱく王子の大蛇退治」「白蛇伝」

「わんわん忠臣蔵」



7月

上映スケジュール

1 月 休館日
2 火 休館日

3 水	14:00 ケス	19:00 海底炭鉱に生きる・まつり 炭鉱問題
4 木	14:00 青春の門	19:00 筑豊のこどもたち
5 金	14:00 筑豊のこどもたち	19:00 花と竜
6 土	11:00 三たびの海峡	14:00 にあんちゃん 17:00 おとし穴
7 日	11:00 プラス!	14:00 対談 15:10 闇を掘る
8 月	休館日	
9 火	14:00 闇を掘る	19:00 にあんちゃん
10 水	14:00 三たびの海峡	19:00 闇を掘る
11 木	14:00 プラス!	19:00 ケス
12 金	14:00 闇を掘る	19:00 おとし穴
13 土	11:00 海底炭鉱に生きる・まつり 炭鉱問題	14:00 闇を掘る 17:00 花と竜
14 日	11:00 筑豊のこどもたち	15:00 青春の門

15 月 休館日
16 火 休映日

17 水	14:00 冬冬の夏休み	19:00 恋恋風塵
18 木	14:00 童年往事	19:00 フラワーズ・オブ・シャンハイ
19 金	14:00 フラワーズ・オブ・シャンハイ	19:00 冬冬の夏休み
20 土	11:00 冬冬の夏休み	15:00 童年往事
21 日	11:00 恋恋風塵	15:00 フラワーズ・オブ・シャンハイ

22 月 休館日
23 火 休映日
25 木 休映日

26 金	14:00 プログラム I	19:00 プログラム II
27 土	11:00 プログラム III	15:00 プログラム I
28 日	11:00 プログラム II	15:00 プログラム III

29 月 休館日
30 火 休映日
31 水 月末休館日



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス: 天神～都市高速経由～福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約20分)

博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約25分)

福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください



編集雑記

福岡市にも、炭鉱があったことをご存知ですか? 福岡市周辺にもかつて炭鉱があって、今でもボタ山が残っている場所もありますよね。かつて石炭産業は日本の復興におおきな役割を果たしたのですが、今は消えてしまいました。今月は福岡市にも関係が深い石炭の歴史を振り返る特別企画「炭鉱(ヤマ)を観る」と台湾を代表する侯孝賢監督特集、日本の実験映画特集です。お楽しみに!! (K.S.)

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>